



5万分の1地質図幅の新刊

長万部  
OSHAMAMBE

5万分の1地質図幅地域地質研究報告

著者 久保和也・石田正夫・成田英吉  
発行 工業技術院 地質調査所  
取扱先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401  
そのほか全国主要書店

販売価格 2,390円

長万部地域は内浦湾(噴火湾)の北西端部に位置し毛蟹の産地として全国的に知られている。どことなくユーモラスな響きを持つこのオシャマンベという地名は付近の山に春遅くまで(シャマンベ)の形をした残雪が見られた事に由来すると言われる。

本地域は東北日本のグリンタフ地域の北方延長部に当たり先白亜紀堆積岩類と白亜紀花崗岩類を基盤として新第三紀前期中新世以降の堆積岩及び火山岩が広く分布する。

本図幅で従来と異なる点をいくつか挙ると

- ・中ノ沢川流域の瀬棚層最上部を中ノ沢川層として区別し その上位にくる知来川層とは化石群集が異なるとした。
- ・図幅地域東縁の 写万部山火山岩類より下位の火山岩類を静狩火山岩類として一括し その時代を八雲一黒松内期とし 間に静狩の金銀鉱脈生成期を挟むとした。

・写万部山火山岩類は鮮新一更新世に堆積した瀬棚層と同時異相の関係にある。

本地域の地質構造は 長万部川流域(いわゆる黒松内低地帯)を境にしてその東西で大きく異なり 西側は基盤岩類を不整合に覆って鮮新世までの地層が東に緩一急傾斜するのに対し 東側は主に鮮新世以降の地層がほぼ水平に分布する。この境界部付近では鮮新一更新世の地層が急立したり 段丘面が傾斜している事等から 本図幅では活構造の存在を推定しているが 詳細は論じられておらず 今後の問題として残されている。

活構造に関連して 本地域の特異性は段丘の分布や河川の流路からもうかがえる。例えば 静狩東方で内浦湾岸から500mの所を流れる来馬川は複雑な流路をたどって延々と北に流下し 日本海に注いでいる。分水嶺をなすのは内浦湾岸に沿って分布する静狩及び写万部山火山岩類の小山体である。本地域は活構造や地形学的な面でも興味深い地域であり それらの分野の研究にも本図幅が有効に利用される事が期待される。

地質ニュース	第356号	4月号
	定価 ¥600	千実費
昭和59年4月1日	発行	
編集	工業技術院地質調査所	
発行人	林久雄	
発行所	株式会社 実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03)265-0951 (代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	出版事業部